

東大見学会 企業大学訪問感想文

①ディレクトフォース

仙台から東京へ行き、ディレクトフォースの皆様のご案内によって笹川平和財団の国際会議場へと向かいました。そこではまず笹川平和財団の理事長である、田中伸男様からお話をうかがいました。田中様は前 IEA 国際エネルギー機関事務局長であり、さまざまなお話をうかがうことができました。お話の内容としては国際エネルギー機関では、石油が少なくなったときにどのように対応していくのか、また原子力発電の事故は設置場所に問題があり人災であったなど、自分たちも納得したりこれからにつなげていくことができるようなものでした。これからの日本には、国際機関を有効に使用していくことが大事であるということをしかり心に留めることができました。

田中様のお話の後に、各班ごとにわかれてグループ内でディスカッションを行いました。私たちの班ではまず笹川平和財団の土居義範様と意見の交換を行いました。土居様とは日本と海外のさまざまな違いについてのお話をうかがいました。土井様はもともと海外でお仕事をしていたりしましたが、日本をよりよくしていきたいという一心で笹川平和財団でのお仕事を始められました。お話の中で私たちに問いかけてくださったことは自分の持っている将来の夢についてであり、なぜそのような将来の夢を持っているかという理由を考えて欲しいということです。私はこのことについてあまり考えていなく、将来何になりたいかという夢もあまり明確なものではありませんでした。このような問いかけから、将来の夢を考える際に何になりたいかということだけではなくなぜなりたいたいかという根源を大切に夢を明確に持っていければと思いました。

次にディレクトフォース授業支援の会の越川頼知様からお話をうかがいました。越川様はイランのテヘラン大学へ留学後、さまざまな国でのインフラプロジェクトにかかわられたそうです。このインフラプロジェクトでは、ほんの些細なミスでも、たくさんの人々とのかわりがあることで大きな影響を及ぼしてしまうということを知りました。これはインフラプロジェクトに限ったことではなくほかのプロジェクトでもあることです。たとえ相談する相手がいなかったとしても、日ごろから多くのことを積み重ね自分で決めていけるように今の若者にはなってもらいたいということをお聞きしました。また、越川様からは日本人の決めたら絶対にやり遂げるという力強い意思についてのお話もいただきました。このような日本人の精神が日本の高い技術をつくり出しているということをお聞きしました。何もないところから何かを作り上げられるような人になってもらいたいというお言葉をいただきました。

次に日本財団の和田真様とお話をしました。和田様は高校卒業後、思いつきによりアメリカに留学されました。海洋グループでの人材育成、東日本大震災によって被害を受けた地域の水産業の支援を担当後、日本財団の広報担当のチームリーダーとして活動されています。このような経験から、和田様は何事も思い通りにならないことだらけである、社会は人と人との信頼で成り立っているのだということをお話いただきました。また、アメリカに留学したことにより日本での価値観とは異なる価値観に変化したことを感じられたそうです。文化がちがくても、少しずつでも慣れていくことが大事だということをお話いただきました。お話の最後のほうにはアメリカ留学の際のユニークなお話もうかがうことが出来ました。

最後にディレクトフォース授業支援の会の山田正実様からお話をいただきました。山田様からは日本と海外の違いについて説明をいただきました。まず、全体的な海外の日本との違いは同質性と異質性というものです。日本人が言葉を使わなくてもお互いを理解できるということは世界的にはおかしいということを知りました。

このようなことから日本は海外の文化も積極的に取り入れていかないと日本の文化は発達していかないとのお話をいただきました。これからの未来は若者が担っているということを強調され、自分たちがこれからの未来を作り上げていかなければいけない人材であるということを改めて実感させられました。

ほんの2時間半という短い時間でしたが、たくさんの講師の先生方との意見の交換を行うことができ、とても実りのあるものとなりました。また表題である、「世界を視野に、未来を生かす。」ということについても具体的に考えることが出来ました。世界を視野にもっているだけで自分たちの未来、自分たちが活躍できる世界が広がっていくということを知ることが出来ました。講師の先生方とお話をしていく中で、これからの未来を若者に委ねたい、若者が未来をつくっていくという話題が何度も出てきました。自分たち若者によって未来は決められていくということを見るとかなり責任は重い気はしますが、日本を担っていくという実感を持つことが出来ました。

②OBOGによる懇談会

1日目の夕食の後、仙台二高 OBOG の方々との懇談会を行いました。今回来てくださったのは東京大学や一橋大学などの首都圏の名だたる名門校の方や社会人の方などでした。OBOG の方々のお話をたくさん聞いているうちに、まだ少し早いが大学での生活が楽しみになってきました。しかし、大学に進学するためには受験という立ちはだかる大きな壁があります。そこを乗り越えるためのアドバイスなどもたくさんいただきました。一番印象に残っているアドバイスは「とりあえず東京大学を志望校にする」ということです。日本で一番知力の高い東京大学を目指すことによって高校生活での勉強の仕方が変わってくると思ったからです。私もこれからはそのようにして成績をあげていければと思います。また、他の勉強に対するアドバイスとしては「苦手教科のセンター試験での出題傾向を見極める」や「学問に興味を持つ」、そして「テストでよい点を取る(英語85%、数学Ⅰ.A90%、数学Ⅱ.B90%)」などでした。やはり成績を上げていかないと大学への現役での進学は厳しいということを改めて感じる事が出来ました。

他にもさまざまなアドバイスをいただきました。まずは見かけと実質を見分けることです。これはディレクトフォースのグループディスカッションの際にも似たようなお話を聞きました。この場でも同じようなお話をいただき、やはり大切なことなのだと感じました。これに関連して、自分の世界を広げることがあります。これは本を読むことで少しずつ広げていけるそうです。これも同じようにディレクトフォースでお話をいただいたものと似ているような気がしました。つぎに自分に責任感を持つ、最後は自分で決めるということです。人の話なども聞きつつ自分の意思をつらぬく、自分の意見をはっきりさせることで今のさまざまな意味で残酷な世の中を生き延びていけるということを知りました。自分の舞台を自分でつくり、しっかりと意見を持った大人になりたいです。最後にどのような人間になりたいかをしっかり考えることです。将来に目的をもって生活をしていくことで、自分の生活に生きがいを感じる事が出来ると思います。

今回の懇談会はこれから自分たちが高校で生活していくにあたってとても意味のあるものだったと思います。このような貴重な体験をさせてもらいとても幸運だと感じています。OBOG の方々からいただいた多くのアドバイスを元に、これからの生活をよりよいものにしていければよいと思います。